

(3) 化学（医薬品を除く）

18/17 19/18 ◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0～▲10%
：天気図マーク； ◎ ○ 伸び率 0～10% ● 伸び率 ▲10%以下

1. 企業経営動向（需要、生産・設備投資、企業収益、財務）

(1) 需要

石油化学製品の内需については、民間需要を中心とした景気回復傾向の継続を背景に、国内需要が堅調に推移していることから、引き続き前年を上回る見通し。外需については、中国を中心とするアジア地域の景気拡大による旺盛な需要が予想されるものの、中国及び中東を中心に大型プラントの新增設計画が引き続き予定され、アジア地域の需給が緩和されることから、輸出入バランスが悪化するものと見込まれる。

また、機能性化学製品については、液晶関連部材を中心に価格低下が継続するものの、市場拡大に伴い、引き続き好調に推移すると見られる。

(2) 生産・設備稼働

石油化学製品について、まず国内においては、エチレン系誘導品等の新增設計画は殆ど予定されていないものの、アジア地域で需要が旺盛なベンゼン、キシレンといった芳香族製品での新增設計画が検討されている。また、海外拠点ではアジア地域を中心に、我が国化学企業が高い技術力を有する誘導品分野での新增設計画が予定されている。

また、機能性化学製品については、液晶・半導体関連部材でも旺盛な需要に対応すべく、国内外で積極的な生産能力の拡大が引き続き見られる。

(3) 企業収益

①18年度の収益状況

主要化学企業の決算概況は、石油化学部門は中国を中心としたアジア地域の旺盛な需要があったことに加え、高騰が続いたナフサ等の原材料価格の製品販売価格への転嫁が進んだことから、過去最高の売上高、営業利益を記録する企業も多く見られた。

一方、機能性化学部門は、液晶関連部材の一部について、韓国・台湾企業との競争の激化、パネルメーカーからの値下げ圧力等により、利益が圧迫されているものの、半導体関連部材は堅調な需要に支えられており、各社において利益幅の縮小が見られるが、概ね増収増益を維持している。

②今後の収益動向の見通し

石油化学製品については、需要は引き続き堅調に推移する一方で、原材料価格の高騰が継続することなどから、増収増益を維持しながらも、利益幅の縮小を見込む企業が多い。

また、機能性化学製品では、引き続き液晶関連材料の価格下落が進むが、販売数量の増加で補うなどにより利益幅が縮小する傾向であるが、引き続き増収増益を見込んでいる。

(4) 財務

18年度では、ROA、ROE、D/Eレシオ等の経営指標を意識しつつ、積極的な設備投資により有利子負債が増加した企業が多く見られ、19年度以降においてもこれらの傾向が継続するものと予想される。

2. 設備投資動向（17年度実績、18年度実績見込、19年度計画）（グラフ1参照）

(1) これまでの設備投資の推移

17年度は、原材料価格高騰などのマイナス要因があったものの製品需要の増加や中国を中心としたアジア向け需要の拡大等によって、化学工業全体では13.9%と2年連続の増加。

18年度については、更なる原材料価格の高騰等の影響を受けつつも、積極的な投資の効果で石油化学（前年度比49.1%増）、有機化学（同10.6%増）を中心に伸長し、化学工業全体では18.4%増と3年連続の増加となる見込み。

(2) 平成19年度の設備投資計画（化学工業〔医薬品を除く〕延べ100社ベース）

・19年度は、機能性材料関連を中心とした更新、維持関連への増加が見られることから、前年度比12.8%増の7,108億円となる見通し。

・業種別では、化学肥料は減少するものの、有機化学及び石油化学は引き続き増加。しかし前期に比べ、いずれも伸び幅は縮小する見込み。

・目的別投資では、生産能力増強は前年度に比べ減少するものの、引き続き高い水準を維持。それ以外でも、更新、維持・補修、新・省エネ、地球温暖化対策の一環として環境保全への投資等が引き続き増加する見込み。

3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1) 長期資金運用動向

19年度における長期資金需要額は8,085億円（前年度比+313億円）と増加。うち、設備投資所要資金額は、同1,235億円増の5,833億円で、長期資金需要額全体に占めるウェイトは同+12.9ポイントの72.1%となる見通し。

(2) 長期資金調達動向

長期資金調達の内訳は、好調な業績を反映して、自己資金（内部資金）が7,595億円（前年度比+354億円）と増加。また、有利子負債については、社債による調達は減少するものの、借入金による調達は増加する見通し。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

